



昭和十六年  
十一月

## 母は皆働く

今日の日本の母は、みんな働いてゐます。昔は、「働く母」と「働かない母」とがありました。そして、「働く母」は何が特別のこのやうに考へられたりしてゐました。又、「働かない母」の方が何となく高尚なやうに思はれたりしてゐました。しかし、今日では、そんな區別は、もうすつかりなくなつて仕舞ひました。それどころか、働かない母は、なまげめとして恥しいことになりました。恥しいどころでなく、御國のために相濟まないことになりました。

母がなまけてゐないで勤勞してゐるこ

とが、我子の教育の上に最もいゝ感化を興へることは、昔から明かなことでありました。所謂有閑夫人といふ名は、いつでもいゝ名譽でありませんでしたし、我子のためにも、いゝ母といふ意味でありませんでした。世が呑氣悠長であつた昔でさへそうでした。今日一層、そうであることは申すまでもありません。

それにしても、人手の少ない家の中のことに忙しく、男手の足りない世の中のことに忙しく、立派にさつさと働きながら、それで我子の養育と教育も立派にしてゆく健康と、氣力と、智慧と、氣働きとに於て、今日のお母さん方に、心から敬意を表さずにはゐられません。

## 幼稚園から

○幼稚園と家庭との聯絡といふことは幼稚園の方からお願ひすることでもありませんが、家庭の方からのごことでもありません。一般の注意といふやうなことでは、幼稚園の方からが主になりませうが、一人々々のお子さんのことに就ては、家庭からの方が主になる筈とも思はれます。

○うちの子は……といつた個性の御注意は素より、その時その時のいろ／＼の御事情、御都合なども、よく知らせて置いて下さるといゝと思ひます。たとへば、此頃は父が長く出張して留守だとか、或は又、いやなことですか、家に病人があるとか、規則上届け出なければならぬこととでなくとも、知れてゐない爲にお子さんへの意志の通らないこととあります。

○つまり、家庭と幼稚園とは親類のやうなものです。用事(幼児)のほかの話はしないといふのでは他人行儀でせう。